

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200175		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター藤心		
所在地	千葉県柏市藤心1-26-28		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成24年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

■ホーム内では定期的なミーティングや介護スキル研修、ケアカンファレンスを開催し、常にケアサービスの質の向上を心掛けると共に、ユニット毎・職員毎の連携や統一された内容のケアが提供されるよう努めています。  
 ■ホーム内は明るく、御客様の笑顔が溢れています。また、定期的な季節の行事や、体操等のアクティビティに力を入れており、身体機能の維持向上を念頭に置いて、積極的に取り組んでいます■立地は、東武野田線逆井駅から徒歩15分の閑静な住宅街の中にあり、穏やかな時間の中でお過ごしいただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス施設「ニチイケアセンター藤心」は3階建ての造りとなっており、小規模多機能型居宅介護施設とグループホームが併設されている。2・3階がグループホームとなっている。エレベーター・特殊浴・機械浴等、施設の所々に身体状況に応じた生活環境整備や工夫がなされている。地域ボランティアの受け入れ・施設行事への地域住民の招待・地域のニーズに合わせた催し物の工夫・地域への行事案内の配布等、施設理解の促進と地域交流の基盤作りに取り組んでいる。職員研修については法人による年間計画に沿って実施されており、事業目標に基づいた人材育成が行われている。また、プライバシー保護や接遇については、全職員は言葉掛けや対応には細心の注意を払い、職員間での日常的な確認や指導が行われており、入居者の尊厳厳守の徹底・改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の社は「誠意・誇り・情熱」を基に経営理念を全職員が周知しています。 また、ホームの理念として「高齢者の尊厳と自立を守り、地域に根差した拠点として笑顔あふれるサービスを提供します」を念頭に置き、日々のケアに取り組んでいます。	「誠意・誇り・情熱」と言う社是と「高齢者の尊厳・自立を守り、地域に根差した施設、笑顔あふれるサービス提供」を目指した施設独自の理念を掲げており、明文化し施設内に掲示している。全職員は理念を朝礼時に唱和していると共に、会議・研修等においてその都度取り上げ、社是・理念の周知・徹底を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御客様との散歩や建物周りの清掃時等に、近隣の方との挨拶を心掛けています。 また、近隣の介護事業所や、町会が開催する催しにも積極的に参加しています。	散歩等の外出時には近隣住民と挨拶を交わす関係を築いていると共に、地域行事には積極的に参加しており、地域との交流促進を図っている。地域ボランティアの受け入れ・施設行事への地域住民の招待・地域のニーズに合わせた催し物の工夫等、地域貢献にも取り組んでいる。施設行事開催時には、行事案内を近隣に配布し、施設理解の促進と地域交流の基盤作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会で行われる季節の行事には、利用者様の状態や希望に合わせて参加できるよう支援を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、当該定期開催されており、事業所の現状やサービス内容の報告相談、また今後における改善点の話し合いが行われ、建設的な意見を頂いています。	町会長・市職員・民生委員・家族・施設関係者等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動の報告・意見交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙がった意見・要望等はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事への参加のほか、地域包括支援センター担当者との連携を行っています。	日頃より市に対しては報告や業務の相談を行うと共に、運営推進会議時には市職員からの意見・要望等を確認しており、協力関係構築に向け取り組んでいる。また、柏市グループホーム連絡会に参加しており、定期的に関催される会議において意見・情報交換が行われ、市と事業所同士が地域の問題解決に向けて協働体制強化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、虐待等に関する情報を共有しています。また、管理者は身体拘束廃止研修基礎課程を修了しており、より正確な情報の共有に努めています。玄関の施錠に関しては、ご本人様ご家族様の要望や安全面に配慮した上で、施錠管理	身体拘束排除における施設方針やマニュアル等を整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。家族には契約時に、外部関係者には運営推進会議時に、施設としての取り組みや工夫についての周知・理解促進を図っており、家族や地域からの理解が得られた、その人らしい自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止関連法に関する研修などを通し得られた情報を、定期ミーティング等を通し、虐待0を維持できるような情報の共有を図っています。また、法人として虐待に対し「しない・させない・いのがさない」をスローガンとして掲げています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部外部を問わず、各種研修の機会があれば希望者は学ぶことが出来るよう支援相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の相談苦情の窓口に関して、契約書や重要事項説明書等に記載しており、玄関にも掲示しています。また、苦情発生時には問題解決に向けて各担当者が誠意をもって対応しています。	意見箱・相談窓口を設置すると共に、家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議時等に意見・要望を確認している。挙げた意見・要望においては、会議等を通じて周知・検討を行い、運営に活かしている。改善結果については納得が得られるような説明を心がけ、改善内容の透明化を図ると共に、家族と施設との良好な関係構築にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にエリア別のセンター長(管理者)会議が開催されています。また、ホーム内におけるミーティングを毎月1回開催し、意見や提案を現場に反映できるよう努めております。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。日頃から管理者が職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見や要望等は会議で検討し、運営や日々の支援に反映させている。研修については法人による年間計画に沿って実施されており、事業目標に基づいた人材育成に努めている。また、柏市グループホーム連絡会主催の活動を通じて他の事業所との交流を図り、サービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定の期間努めた介護従事者に対し、面談、テスト等を実施し今後の課題を捉えながらも現状の実力に応じた給与加算(キャリアアップ制度)が実施されています。また、面談を通して得られた意見をホーム内の環境整備に活かせるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は、希望者が受けられるよう随時対応を行っています。また、職員のスキルアップを目的とした段階的な育成や、働きながらトレーニングが進められるように、育成計画の作成を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、常に交流を行っています。また、定期的に勉強会や講習、スタッフ交流会が開催されています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、不安や要望、必要なケアや関わり方を傾聴し、ケアカンファレンスを通してケアの統一を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧時や申し込み時に、ご家族様の希望や問題点等を話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談時に、ご家族様と本人様の状況を確認し、ケアマネージャーや事業所各所との相談を通し、入居に限らず本当に必要としているサービスが受けられるように提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護や支援をするだけでなく、利用者の方とのコミュニケーションや共同生活を通し、利用者の方が持っている様々な能力から日々学び、気付かされています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、ヒアリングやモニタリングシートの記入を行っていただき、定期的なケアプランの作成から、ご家族様の協力の下、支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様へのお届け物などは、お礼の連絡をご家族様やご本人様から相手方へ入れられるよう支援を続けています。	家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。また、知人・友人の来訪や手紙のやり取りも支援しており、馴染みの人との関係継続にも努めている。行きつけの美容院の利用やお墓参り等、入居者一人ひとりの生活歴を尊重し柔軟な対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者の方を見つけられるよう支援・観察を行い、交流場面が増やせるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の利用者様やご家族様の状態を鑑み、何らかの支援を必要とされる場合は、いつでも御連絡頂きます様お伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様や御家族様に、御希望や以前の暮らしをお伺いし、職員で情報共有しています。	入居時に本人・家族から生活歴・身体状況・意向等を聴取している。入居後は家族との話し合いや日常生活の観察・会話の中から意向を汲み取り、より詳しい情報の把握に努めている。全職員にて意見・情報交換を行い、本人本位で検討し情報を共有しながら、入居者の意向に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や御家族様とのヒアリングを通し、個別の生活状況にあわせてケアプランを作成しています。 また、アセスメントシートや面会時を通して、御家族様からも情報提供を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りにて、職員間で情報を共有し、ケアプランへの反映や実際のケアに活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートや日常生活支援シートを通し、利用者様の目標とご家族様の要望を踏まえたカンファレンスを行い、ケアプランの作成に活かしています。	本人・家族と意向の確認を繰り返し行い、会議を通じて全職員で情報交換や検討を行いながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認・評価を行うと共に会議や記録等で情報の共有を図っている。必要に応じて計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、全スタッフが確認しています。 また、毎日の申し送り以外にも別途ノートを使用し、全スタッフで情報の共有と介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや嗜好品の買い物付き添い等、多角的に幅広く対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターへの相談や、ボランティアさんの御協力を得ながら、地域の行事にも参加できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様や御家族様の希望に沿った医師による医療を受けられるよう随時相談を承っています。	希望のかかりつけ医への受診が可能になっており、必要に応じて職員による付き添い支援が行われている。協力病院が設置されており、定期的に内科医の往診が実施され、適切な医療支援が行われていると共に、入居者の健康管理・職員からの医療全般おける相談・家族への説明等、医療面における連携が図られている。また、緊急時・急変時の24時間体制の協力も確保されており、入居者・家族・職員の不安解消にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と連携相談を行いながら御客様の健康管理を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院へ提出し、概ね3日毎に面会に行き、担当医や看護師と話す機会を設け、退院計画、目標を家族と共有し連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、ご本人様と十分に話し合い、その内容をホーム全体で共有し、終末期、看取りに関して取り組めるよう努めています。	重度化・終末期に関しては施設としての看取りは行っていないが、入居時に施設方針の説明を行うと共に、本人・家族の意向の確認を繰り返し行い、安心・納得が得られるよう取り組んでいる。また、重度化・終末期の状態変化に適切な対応ができるよう、主治医等の関係機関と連携を図り、施設として出来る限りの支援が出来るよう体制整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルが用意されており、全スタッフに周知されています。 また、全スタッフが普通救命講習を受けられるよう支援を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルが用意されており、全スタッフに周知されています。 また、毎年2回の防災訓練を消防署員協力の下実施しております。	緊急マニュアルの整備や防災責任者が配置されていると共に火災報知機・消火器・スプリンクラー等が設置されており、非常災害時に備えている。消防署立会いの下、消防避難訓練を年2回実施されており、災害時の対応方法の指導や設備点検が行われ、万全な対策が講じられている。運営推進会議においては避難訓練の報告と共に地域住民への協力の呼びかけを行う等、支援体制の整備に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に個人情報保護法を理解出来るようテキストによる研修とテストを実施し、周知理解をしています。また、定期的に行われるミーティングを通し、日々の声かけや接遇に関する注意喚起を行い、利用者様の尊厳維持に努めています。	会議や新人研修等でプライバシー保護や接遇についての確認や指導が行われており、利用者の尊厳厳守の徹底を図っている。日々の業務において、全職員は言葉掛けや対応には細心の注意を払い、利用者の生活が誇りやプライバシーが保たれるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、利用者様の個々の状態に合わせて選択肢を提供するなど、自己決定がしやすいよう支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々自由にお過ごし頂けるよう個々の生活のリズムに配慮した支援を中心にケアを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の状態や以前の暮らしを考慮しながら、今希望する身だしなみが整えられるよう支援しています。美容においては定期的に訪問美容も利用し、本人様の希望に沿ったヘアスタイルを決めて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態や希望にあわせて下ごしらえや調理、盛り付け、片付けをスタッフと共に行っています。	献立作成と食材は委託業者を利用しており、入居者の嗜好・身体能力・栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。特別食・行事食・おやつ等は入居者の希望・旬の野菜・自家菜園の作物等を取り入れながら、職員と共同で調理をしており、食の楽しみを共有している。パーベキュー・出前・オードブル形式等、食事場所や提供方法に工夫を凝らしており、食に対する様々な楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変えており、医師の指示に応じて塩分調整等実施しております。また、水分や食事の摂取量を記録しており、バランスよく摂取が続けられるよう支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを無理なく続けて頂くよう促し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録の中から個々の排泄サイクルを捉え、気持ちに配慮した声かけ、誘導、支援を行っています。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を実施している。夜間においては、ポータブルトイレの活用やトイレ誘導を行い、適切な支援が行われている。必要に応じて、看護師・医師と相談し、適切な排泄コントロールも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、適度な運動や体操のアクティビティをしながら便秘予防を行い、主治医と連携を取りながら情報の共有を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に無理強いすることなく、希望する日時に入浴できるよう支援に努めています。	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数・時間帯等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴等を実施し、清潔保持にも努めている。入浴拒否においては、一人ひとりに合わせた声掛けや日時の変更等に対応し、無理強いせず、入居者の心情に配慮した入浴支援を実施している。特殊浴・機械浴の設備があり、身体状況に応じて入浴ができるような体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、希望される時はお昼寝出来るよう支援し、夕方からは場面転換を行い、宿泊される方へは安心して就寝出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人が出来る限り自分で正しく服用できるよう支援を行っています。また、服薬ファイルでの薬剤情報周知や、分包、服薬セット時、服薬時にそれぞれ2重チェックにて管理を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を活かせる場面、得意分野を見極めながら、役割、居場所等、力を発揮して頂けるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調や気分に合わせて、買い物、散歩など季節を感じられるよう支援を行っています。	入居者の希望・体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われていると共に、定期的に外出行事を企画・実行しており、戸外での楽しみを支援している。施設内の庭は、出入りが自由で使い勝手が良く、気軽に戸外の空気に触れるような場所となっている。他には、近隣の介護事業所への訪問等、幅広い外出活動の支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時には金銭を所持または使用できるようご家族様と相談し、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持する事も可能です。また、ホームの電話を使用する際は、職員が見守る等、必要な支援を随時行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	眩しさを感じない照明で、テレビのボリュームも場面に合わせて調整しています。また、快適な空間が保てるよう常時配慮をしています。	施設は3階建ての造りとなっており、小規模多機能型居宅介護施設が併設されている。エレベーターが設置され、各階への行き来が自由となっており、身体状況に応じた環境整備がなされ、入居者の安心と自由な生活に繋がっている。2・3階にあるグループホームはバリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され利用者の安全面に配慮された造りとなっている。リビングにはテレビ・ソファ・テーブル・和室等配置されており、利用者が思い思いにくつろぐ事が可能で、居心地良い空間となっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、自由に利用でき、出来る限り個別の思いに配慮した場所で過ごせるよう支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要なときは、なじみの物を持ち込んで頂く様、御利用時にお願いをしています。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物や思い出の物等、自由に持ち込む事が可能で、居心地良く生活出来るよう配慮している。入居者の好みや生活歴等に応じた居室作りが可能となっており、一人ひとりの個性が表れた居室となっている。各居室にエアコン・ナースコールが設置されており快適で安全面に配慮されている。鍵が設置されており、入居者のプライバシーの確保もなされている。他に、各居室にはベランダが設置されており、洗濯物・布団を干すスペースや非常災害時の避難経路として活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御客様が使いやすいように工夫された設計・配置がされています。		